

「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」に関するアンケートについて（概要）

令和3年2月25日
日本学術会議幹事会

I アンケートの趣旨・形式

(1) 趣旨

日本学術会議のあり方見直しに向けて、日本学術会議会員、連携会員及び協力学術研究団体に対して実施した。

(2) 実施時期

会員：昨年11月下旬～12月上旬

連携会員及び協力学術研究団体：本年1月中旬～2月上旬

（参考：昨年12月16日「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて（中間報告）」をとりまとめ）

(3) 以下の3項目について、自由記述の形で回答。

1. 日本学術会議がよりよくその役割を果たしていくために、その活動、運営に関連して、検討すべき点、そのために必要な方策などについて
2. ナショナル・アカデミーとしての役割を果たすのにふさわしい日本学術会議の設置の形態やあり方などについて
3. その他（自由記入）

II 傾向分析結果

- (1) 会員等の協力を得て、学術論文の傾向調査などに用いる テキストマイニングの手法 を用いて、回答における「言及」の傾向を分析（別表参照）

（回答数）会員：142、連携会員：150、協力学術研究団体：303 計 595

(2) 主な傾向（分析中）

（※以下、「会員等」は、回答者のうち、会員、連携会員を指します。また、言及の傾向であって、内容への賛否を分析したものではありません。）

- 学術会議における何らかの改善の必要性については、ほとんどの種別の回答者において言及の傾向が認められる。
- 特に会員等では、提言機能についての言及の傾向が高いほか、学術会議の意義、情報発信の在り方、事務局の機能、任命問題についても、一部で言及の傾向が高い。

○ 協力学術研究団体では、独立性や任命問題についての言及の傾向が高い。

(3) 今後、以上のような傾向を参考に、個票を利用して、回答者からの意見のくみ上げに活用する予定。

(別表) 傾向分析結果

種別		質問項目																
		改善の必要性	国際活動の強化	提言機能	選考プロセス	独立性	機能強化	研究者	学術会議の活動	任命問題	学術会議の意義	予算措置	情報発信	設置形態	組織の意義	事務局について	会員について	
種別		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	
会員・連携会員	人文・社会科学系	1	0.5	0.2	1.4	0.4	0.0	0.3	0.6	0.4	0.2	0.1	0.3	0.5	0.0	0.4	0.5	0.5
	生命科学系	1	0.6	0.2	0.9	0.5	0.1	0.3	0.3	0.3	0.2	0.3	0.2	1.0	0.0	0.7	0.7	0.7
	理学・工学系	1	0.4	0.4	1.3	0.4	0.0	0.6	0.5	0.5	0.4	0.3	0.1	1.0	0.0	0.6	0.6	0.5
協力学術研究団体		1	0.3	0.2	0.4	0.6	0.1	0.4	0.5	0.3	0.4	0.3	0.2	0.5	0.0	0.6	0.3	0.5
会員・連携会員	人文・社会科学系	2	0.5	0.1	0.2	0.1	0.6	0.0	0.3	0.3	0.4	0.2	0.5	0.1	0.0	0.5	0.2	0.4
	生命科学系	2	0.3	0.2	0.4	0.3	0.5	0.0	0.2	0.2	0.5	0.2	0.8	0.1	0.0	0.8	0.1	0.2
	理学・工学系	2	0.4	0.2	0.2	0.1	0.6	0.0	0.4	0.3	0.3	0.2	0.5	0.1	0.0	0.4	0.2	0.1
協力学術研究団体		2	0.1	0.0	0.1	0.1	0.8	0.0	0.3	0.2	0.3	0.1	0.3	0.0	0.2	0.3	0.1	0.2
会員・連携会員	人文・社会科学系	3	0.2	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.3	0.8	0.5	0.2	0.1	0.0	0.0	0.7	0.5	0.4
	生命科学系	3	0.4	0.0	0.3	0.0	0.1	0.0	0.2	0.4	0.7	0.2	0.1	0.0	0.0	0.6	0.4	0.4
	理学・工学系	3	0.4	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.7	0.3	1.0	0.2	0.2	0.1	0.0	0.6	0.7	0.2
協力学術研究団体		3	0.4	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.5	0.3	0.7	0.3	0.1	0.2	0.0	0.4	0.3	0.2

【回答数 (対象数)】 会員 : 142 (204)、連携会員 : 150 (約 1900)、協力学術研究団体 : 303 (約 2000)